

令和 8 年度 個別学力試験問題

小 論 文

(福祉健康科学部)

コース名	共通問題	コース別問題	解答時間	配点
理学療法コース	1～2 ページ	3～4 ページ	90 分	300 点
社会福祉実践コース		5 ページ	90 分	300 点
心理学コース			60 分	100 点

理学療法コースは共通問題 **1** と理学療法コースのコース別問題 **2** を解答しなさい。

社会福祉実践コースは共通問題 **1** と社会福祉実践コースのコース別問題 **3** を解答しなさい。

心理学コースは共通問題 **1** のみを解答しなさい。

注意事項

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
3. 解答は解答用紙の指定された解答欄に横書きで記入しなさい。
4. 問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰りなさい。

前期日程(共通問題)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

今、社会問題となっている孤立は特別な人にだけ訪れる境遇ではありません。人は誰でも、その入り口の近くに立っているといえます。

例えば、さまざまな障がいのある人、医療的ケア児を抱えた家族、子育て中の母親、その中でもひとり親家庭、要介護者と介護者、一人暮らしの高齢者、引きこもり状態にある人たちなどは孤立のリスクが高い状態にあります。

こうした人たちには、それぞれの状態に応じて守ってくれる制度がある程度用意されているかのように見えます。しかし、それらはあくまでも形式的で、この人たちが本当に不安なく安心して過ごせるような制度にはなっていません。本当に不安なく生活していくためには、家族とまではいわなくとも身近な人と人とのつながりが必要だと考えています。国や行政が用意した制度の中では、生活の中でのつながりまでには至っていないのです。

なぜなら、こうした制度は多くの場合、行政の「縦割り制度」で運営されているからです。しかし、人の生活は縦割りにはできません。例えば、不登校の中学生を育てているシングルマザーが、認知症の親を世話しながら仕事をしていて、本人ががんとなり余命宣告されたというような場合、行政の相談先はすべてバラバラです。また、乳児院には赤ちゃんしかいません。児童養護施設には子どもしかいませんし、特養^{注1}には高齢者しかいませんし、障がい者のグループホームには障がい者しかいません。

同じような状態の人が寄り添っているの是一見、当たり前のように思えます。本来の制度はそれぞれが孤立するリスクの高い人たちを、そうさせないようにすることを目指して設計されたはずです。

(中略)

地域共生社会とは、人の幸せは人と人とのつながりの中にあると考えることから始まります。私が唱える地域共生社会では赤ちゃんから高齢者まで、多世代が分け隔てなく暮らしていけることを目指しています。

この社会では、障がいや病気、認知症の有無や要介護の度合い、国籍、性別などに一切の線引きをしないし、壁も設けません。そこに集う人がどのような状態であろうともたがいに支え合っていけるような社会でなくてはならないのです。

支え合いの問題だけではありません。日本では年を取るほど幸福度が低くなるといわれます。その原因の一つは孤立化にあると思います。私が地域共生社会の構築に力を注いでいるのは、地域の人たちに等しく幸福度の高い生き方をしてほしいためでもあります。幸福度の指標は分かりにくいですが、例えば、笑顔の多さで表すとしてみましょう。私たちは、道端で赤ちゃんとすれ違ったときつつい笑顔になってしまいます。何も仕事ができないように思える赤ちゃんですが、

人を笑顔にし、人の心を穏やかにすることができます。これをすべての福祉職の人たちができるかという、そうとも限りません。対人援助技術などを学んだうえでの業務上でのミッションと比較すると、赤ちゃんの^な為せる業は本当に素晴らしいものです。この笑顔だけを考えても、たくさんの人が日常的に関わり合うことの大切さが見えてきます。

地域共生社会は最初からそこに存在するのではなく、地域の実情に応じて、その地域の人たちによって意識的に整えていくものであると思います。

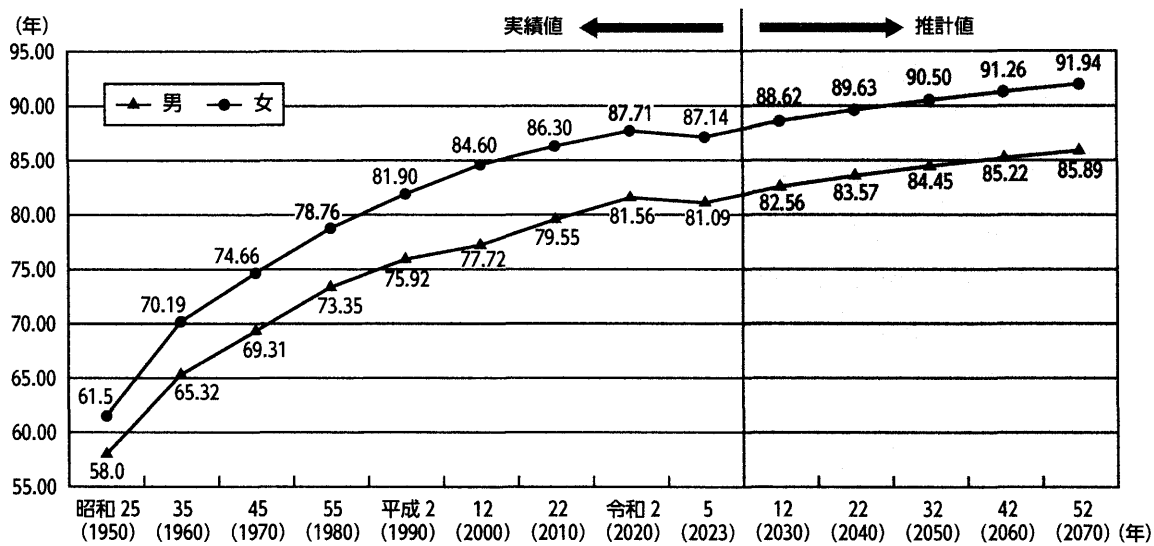
(権頭喜美恵, 『福祉施設からはじまる多世代ごちゃまぜ地域共生社会』, 幻冬舎メディアコンサルティング, 2024年より抜粋・改変)

注1 特養：特別養護老人ホーム

問 著者の描く「地域共生社会」について説明し、地域社会において誰もが孤立しないための対策について、あなたの考えを600字以内(句読点を含む)で述べなさい。

理学療法コース(コース別問題)

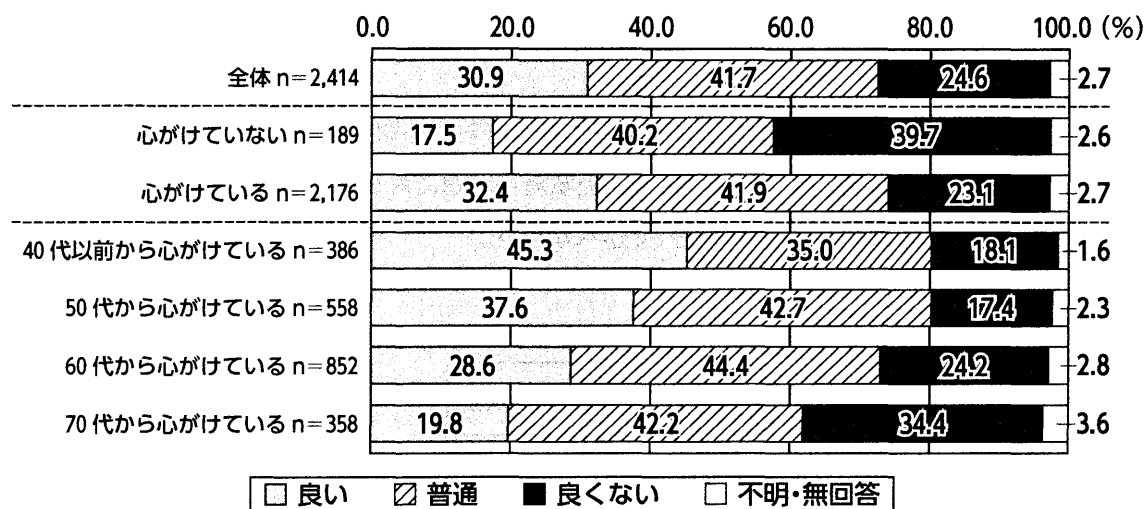
- 2 次に示す資料は、日本人の平均寿命の推移と将来の推計(図1)、健康について心がけを始めた年齢と健康状態(図2)を示したものである。これらの図を総合的に読み解き概説しなさい。また、「長寿社会において個人と社会はどのように健康を維持・促進していくべきか」について、あなたの考えを500字以内(句読点を含む)で述べなさい。



資料：1950年、2023年は厚生労働省「簡易生命表」、1960年から2020年までは厚生労働省「完全生命表」、2030年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」の死亡中位仮定。
 (注) 1970年以前は沖縄県を除く値である。0歳の平均余命が「平均寿命」である。

図1 平均寿命の推移と将来推計

(出典：内閣府、『令和7年版高齢社会白書(全体版) - 第1章 高齢化の状況』、2025年に基づき作成)



(注1)「良い」は「良い」と「まあ良い」の合計、「良くない」は「あまり良くない」と「良くない」の合計

(注2)「70代から心がけている」の対象は全て70歳以上である。

(注3)四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない場合がある。

(設問者注)「良い」、「普通」、「良くない」は、「現在の健康状態」についての質問に対する調査対象者の回答である。

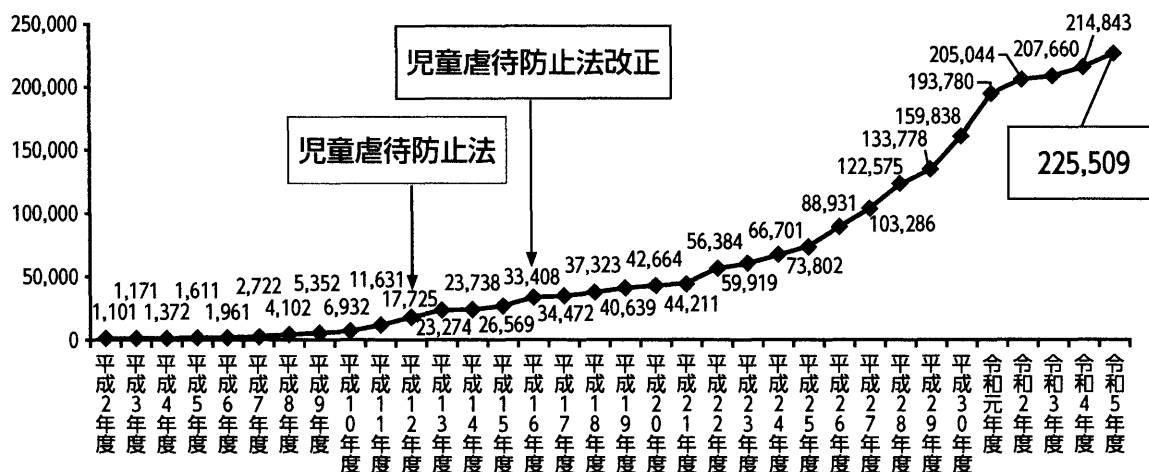
図2 健康についての心がけ・心がけ始めた年齢と健康状態(択一回答)

(調査対象者：65歳以上(令和4年10月1日現在)の男女)

(出典：内閣府、『令和5年版高齢社会白書(全体版)－第1章 高齢化の状況』、2023年に基づき作成)

社会福祉実践コース(コース別問題)

- 3 次を示す図は、「児童相談所における児童虐待相談対応件数とその推移」である。この図を読み解き、現状とその課題を説明したうえで、児童虐待問題に対して求められる対応について、あなたの考えを500字以内(句読点を含む)で述べなさい。



(注)平成22年度の件数は、東日本大震災の影響により、福島県を除いて集計した数値。

年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
件数	66,701	73,802	88,931	103,286	122,575	133,778	159,838	193,780	205,044	207,660	214,843	225,509
対前年度比	+11.3%	+10.6%	+20.5%	+16.1%	+18.7%	+9.1%	+19.5%	+21.2%	+5.8%	+1.3%	+3.5%	+5.0%

図 児童相談所における児童虐待相談対応件数とその推移

(出典：こども家庭庁、「令和5年度 児童虐待相談対応件数(令和7年3月現在)」に基づき作成)